

前提となる現状

- 国立青少年教育施設の**利用者数の減少**
※学校利用の減少／オンライン研修・打合せの増加
- 子供たちの**体験機会の減少**
- 社会における**デジタル環境の進化**
- 人口減少社会（特に**少子化の影響**）
- **施設の老朽化や収支状況の悪化**

必要となる視点

- 青少年教育の**ナショナルセンター**としての取組の**明確化**
 - 施設の**利用促進**に向けた取組の実施
➔ 今後の国立施設の**在り方の再検討**
- 併せて、持続可能な施設経営に向けて
- 適切な**インフラマネジメント**の徹底
 - 管理運営の改善（**経営の視点**の導入）

報告書の骨子

1. 青少年教育のナショナルセンターとしての機能

- 法人経営の観点から、備えるべき施設や機能を取捨選択
- 社会的意義を意識した全体戦略の策定
- 組織風土の改革
(必要な取組例)
・先導的取組の開発や実践研究
・指導者養成
・内部人材育成
・国際交流

2. 国立青少年教育施設の利用促進

- 専門的知見を生かした体験機会の提供
- 提供するプログラムにマーケティングの視点を導入
- 地方施設の魅力化に本部の主体的な関与の徹底
(必要な取組例)
・地域特有のプログラム提供
・新たな利用者層の獲得
・直接指導の充実
・魅力的な施設への転換
・新たな形態での青少年教育提供
・適正な利用料金の設定 等

3. 国立青少年教育施設のインフラマネジメントの徹底

- 適正なインフラマネジメントの徹底（事後保全から予防保全へ）
- 技術系職員の不足に対して早急な対応の必要性
- 実施する取組に応じた施設（ハード）の必要性の確認
- 施設の清潔さを保つためのメンテナンスの徹底
- インフラマネジメントに民間活力の活用の検討

4. 国立青少年教育施設の運営改善

- 国立施設の機能・規模の再検討
- 国立施設の運用自体の再検討
- 法人運営における経営の視点の導入
- 施設更新や運営に民間活力の活用の検討
- 管理運営業務の効率化（ルール改善・DX化など）

5. 今後の国立施設の在り方

- 国立青少年教育機能の強化に向けて、**拠点機能**を**担う国立施設**を一定のエリアごとに特定
- 施設の数・規模や宿泊定員の見直し、機能の適正化、再編などの**機能別分化**の**検討**
- 経営改善に資する業績の評価を行うため、青少年機構全体の**目標管理体制**の**徹底**
➔ **拠点施設の設定と機能別分化の検討は速やかに着手し、結論が出た施設から、順次、機能強化や縮小・再編の取組を推進。**
➔ **次期中期目標期間（R8～R12）中に、全ての施設の機能別分化について具体的な結論を得る。**